

入院患者を対象とした各診療科における内服薬削減数及び種類の検討

・はじめに

近年、多くの薬剤を併用することによる薬物相互作用や副作用の増加への問題が取り上げられています。臨床的に必要以上の薬剤が処方される「ポリファーマシー」という言葉もよく聞かれるようになりました。2016年度診療報酬改定では、入院前に6種類以上の内服薬が処方されていたものについて、処方内容を総合的に評価したうえで調整し、退院時に処方される内服薬が2種類以上減少した場合若しくは抗精神病薬を4種類以上内服していたものについて入院中に2種類以上減少した場合等に算定可能な薬剤総合評価調整加算が新設されました。そこで、薬剤総合評価調整加算を算定した患者さんの入院中に減少した薬剤の種類や数などを調査し、介入内容を検討することで医薬品の適正使用に貢献したいと考えています。

・対象となる患者さん

2016年4月1日～2018年3月31日までの2年間に薬剤総合評価調整加算を算定した患者さんの臨床情報が対象となります。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

・研究内容

カルテより下記の診療情報を収集します。

- ① 患者背景（年齢，性別，診療科）
  - ② 薬剤情報（入院中に減少した薬剤の種類と数，減薬理由） など
- この研究を行うことで患者さんに余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

収集されたデータは、匿名化してプライバシーの保護に細心の注意を払います。またこれらの試料等を利用した医学研究によって得られた成果等が、学術集会や科学専門誌で発表される場合でも個人が特定されることはありません。

・研究期間

倫理審査委員会承認後～2020年3月31日まで

・医学上の貢献

入院中に減少した薬剤の種類や数, 減薬となった理由等の実態調査を行い, 薬剤師による減薬への介入方法を検討することで, 医薬品の適正使用に貢献できると考えます。

・研究機関

研究責任者: 千葉医療センター 薬剤部 薬剤師 鈴木 博晃,

共同研究者: 千葉医療センター 薬剤部 薬剤師 渡部 智貴, 野村 理恵, 加藤 一郎

千葉医療センター 内科 医師 杉浦 信之

連絡先

〒260-8606

千葉県千葉市中央区椿森 4-1-2

043-251-5311 内線: 2981

担当 千葉医療センター 薬剤部 鈴木 博晃